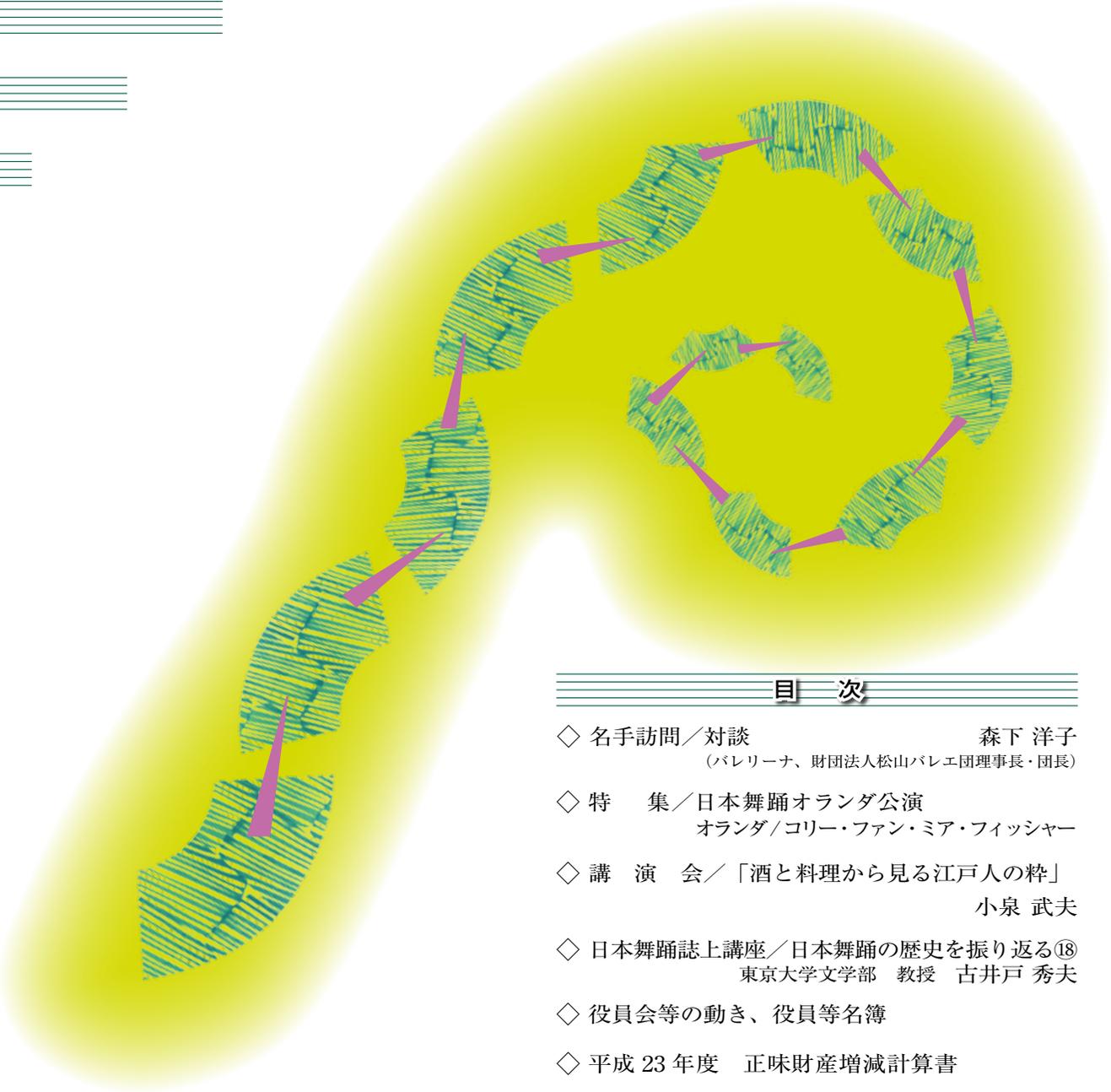


# NBF

Information

2012・Summer

No.42



## 目次

- ◇ 名手訪問／対談 森下 洋子  
(バレリーナ、財団法人松山バレエ団理事長・団長)
- ◇ 特 集／日本舞踊オランダ公演  
オランダ／コリー・ファン・ミア・フィッシャー
- ◇ 講 演 会／「酒と料理から見る江戸人の粹」  
小泉 武夫
- ◇ 日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る⑱  
東京大学文学部 教授 古井戸 秀夫
- ◇ 役員会等の動き、役員等名簿
- ◇ 平成 23 年度 正味財産増減計算書
- ◇ 特別会員芳名
- ◇ NBF 活動報告、行事予定、編集後記

# 名手 訪問

対談 森下洋子(バレリーナ、財団法人松山バレエ団理事長・団長)  
西川扇藏(公益財団法人日本舞踊振興財団 理事長)  
[敬称略]



2012年7月2日  
(於：松山バレエ団)

西川 森下先生には日々大変お忙しいところをお時間を割いていただきありがとうございます。

森下 とんでもないことでございます。今日はわざわざお出向きいただきまして、こちらのほうこそ恐縮に存じております。

西川 先生とは今までに幾度かお会いさせていただきましたが、なかなかゆっくりとお話する機会がなかったもので、今日は楽しみにお伺いさせていただきました。

森下 私も大先輩である日本舞踊の大家の方とこのように直接に接することができて光榮に思っております。

西川 先生はお生まれは広島でいらっしゃいましたね。

森下 はい、そうなんです。

西川 今でも広島へは行かれますか。

森下 なかなか難しいですね。両親が健在な頃は気象情報などで広島地方

が雨模様だとちょっと気になって電話をかけたりにしていたのですが。

西川 ご両親は喜ばれたことでしょうか。例え電話でも声を聞くことでお互いホッとしたりできました。

西川 「世界のモリシタ」と言われるほどの超多忙な先生のことですから、ご両親にもまた先生にも貴重なお時間でしたでしょうね。

森下 もっとも母が9年前に、そして父が昨年なくなってしまい、私の妹も今は東京住まいなので、広島へ帰る機会は少なくなってしまいました。

西川 そうでしたか。実は広島は以前より私どもの稽古場がありまして、今も私の代わりに門弟が毎月教えに行っています。

森下 そうだったのですか。では先生も広島へいらっしゃるごことがおあり

なのですか。

西川 5年ごとに広島の一門の舞踊会を開催しておりますのでそのときには私も伺っております。以前は空港が海辺のあたりにあったと記憶しておりますが、近年は市外の離れたところが変わってしまったようなのでまづ新幹線を利用してあります。

森下 昔の広島空港は便利でした。私の実家からも15分くらいで行きましたので良く使わせていただきました。先生のお流儀は各地にご門弟がいらっしゃるのですか。

西川 各地方によってバラツキはありますが、一応北海道から九州、沖縄まで支部がございます。

森下 沖縄にもおありなのですか。あちらは組踊や琉球舞踊が根付いているようにお見受けいたしますが。

西川 仰るとおりですね。しかし沖縄も本土復帰して40年、日本舞踊も現地にある古来からの舞踊もともに文化として成り立っております。ところで先生はどのようなきっかけでバレエの世界にお入りになられたのでしょうか。

森下 私は生まれつき非常に体が弱かったものですから、お医者様から何か運動をすることを奨められておりました。たまたま3歳の折に家の前の幼稚園でバレエ教室が開設されました、そちらにお世話になりました。

西川 3歳ですか。爾来今日までバレエ一筋で歩まれたのですか。

森下 まさかこんなに長く続くとは両親も思っていなかったでしょうね。

西川 きっかけが偶然とはいえ、それは素晴らしい出会いだと思います。

森下 はい、その出会いには私も感謝しております。体はどんどん丈夫になり、街を歩いても踊りはじめるほどバレエに熱中している私を見て、両親も驚いていたようでございます。

西川 早い時期にバレエに目覚めたことは、その後の開花も当然早いわけ

で結構なことですね。

森下 小学校の一年生のときに広島の公会堂で東京のバレエ団の少女達が踊る舞台を拝見したのです。

西川 良い体験をされましたね。

森下 5年生か6年生くらいの方4人が手を取って4羽の白鳥を踊られたのです。それを見て私もあんな風に踊りたい、東京へ行ってバレエを勉強したいと思うようになりました。

西川 バレエに関しては全てに早熟だったのですか。

森下 そうですね。それで夏休みと冬休みは東京にレッスンに行くことになりました。家には妹がおりましたから母に送ってもらうわけにもいかず一人で行きました。

西川 そのような幼い時分に良く行かれましたね。

森下 広島駅までは両親が送ってくれて、一人で当時の特急あさかぜとかはやぶさに乗って東京まで12時間くらいかかりまして、東京駅で先生にお迎えに来ていただきました。

西川 ご両親は心配だったでしょうね。

森下 そうでしょうね。それで東京に着いたら両親に電報を打ったのです。「ヨウコブジツイタ」と。

西川 今みたいに携帯電話やメールがありませんでしたからね。

森下 はい、電話もまだ各家庭にはありませんでしたから電報でした。

西川 ご両親は電報が届くのを首を長くして待たれたのでしょうか。

森下 電報が着くまではゆっくり眠れないと言っていました。そして「洋子はバレエにあげちゃった子だと思わないとしょうがない」と覚悟を決めたようです。

西川 先生の熱意に打たれたのでしょうか。

森下 今から思えば両親は勇気があったと思っております。東京に行く以上は自分たちの知らないバレエの世界だから口は出さない、そのかわりお金は出してあげる、と言うのですから。

西川 ご両親のご理解なくしてはなかなか進まないお話ですね。

森下 両親には今でも感謝いたしております。

西川 先生を本格的にバレエの世界に導いた方はどのような方だったのでしょうか。

森下 最初に師事したのは葉室潔先生でした。先生は児童舞踊ともなされていて純クラシックバレエの先生ではなかったので、「洋子ちゃんにはクラシック専門の先生のほうがいいでしょう」と仰って、次に洲和みち子先生を紹介してくださいました。

西川 それは葉室先生に先見の明があったのでしょうか。

森下 非常に厳しい先生でした。ステップとかその他技を教わるより、根性とか忍耐とか、人間としてどうあるべきか、というようなことを叩き込まれたように思われます。

西川 大切なことを教わったのですね。

森下 つま先立ちの稽古をしていて時間の経過とともに足が痛くなってきて落っこちてしまうと、ハタキの棒で叩かれたりもしました。

西川 昔はどの世界にもそのような厳しい先生がいらしたものです。今ならちょっと考えられないような。

森下 すぐ親がクレームをつけるでしょうね、今なら。でも当時は親も先生を信頼していて、みみず腫れになった私の足に親が薬を塗ってくれました。

西川 さていよいよ憧れの東京で勉強をされますが。

森下 東京に行ってから橋秋子先生に師事いたしました。先生は例えば「白鳥の湖の主役をあなたが踊るときに回りにどれだけの人が支えてくださるか、その責任を感じなければいけない」とよく言われました。

西川 まさに帝王学の教えですね。

森下 そうですね。だから全ての演者の踊るものもきちんと覚えなければいけない、とまた回りに気を配らなくてはいけない、皆に感謝をしなければ

いけない。その上で尊敬されるような人物にならなければ良い作品はできません、と仰られました。

西川 我々の世界にも共通の素晴らしい教えだと思えます。

森下 バレエを生業としていてもバレエしか知らないような人間ではいけないとも言われました。その他お行儀のことや裁縫や料理も教えていただきました。

西川 そのころはいわゆる内弟子さんでいらっしゃったのですか。

森下 先ほども申し上げたように両親はお金を送ってくれていましたし、内弟子に入ったわけではないのですが、先生の傍に四六時中付いていましたから、実際は内弟子のようなことをしていました。

西川 まだ頭脳が柔軟な頃から徹底的に仕込まれたわけですね。

森下 そうだったのでしょね。橋先生には毎日一時間くらいは道徳というのでしょうか、人間として如何に生きるべきかという講義を受けました。それで一日が終わって布団に入って寝入りばな夜中の1時頃に起こされるのです。

西川 それは大変ですね。

森下 今度は先生ご自身のお時間で振付をされるのです。私ももう一人の門弟を使つてすべての作業を夜中になさるのです。朝になると先生はそれからお休みになりますが、私は学校に行かなければなりません。でもこの修業が私にとりましては本当に良い勉強になりました。

西川 相当厳しい修業かと存じますが、先生も良く耐え抜かれましたね。

森下 橋先生は私が二十歳を過ぎて直ぐに亡くなられましたので、師匠を失つてしまい大変困ってしまいました。基礎を徹底的に叩き込まれ、これから芸術としてバレエに取り組んでいかなければならないときでしたから本当に途方にくれました。

西川 いくつになっても教えてくださる先生は必要なのですね。

森下 そんなときだったのです、清水と出



会ったのは。最初に「何のために踊っているの？」といわれました。3歳のときからただひたすら好きで踊ってきたバレエですけれど、夢中で歩んできた中でそのようなことを考えたことはなかったのですね。今まで人様に楽しんでいただければそれで満足していたのだけれど、それだけではないのではないかと改めて考えたのです。

バレエを踊るということは人々の幸せのためとか、勇気や希望や夢を届けるためではないか、そういうことが本当の舞台芸術ではないのだろうかと考えようになりました。自分自身の技を研くことはもちろん必要なことですが、技を見せるものではないのではないかというようにも考えられるようになりました。何のために踊るのという問いかけは私にとりましては大きなターニングポイントといえると思います。

そのような思いを持つ中で、1970年松山樹子先生が踊る「白毛女」を見、圧倒的な存在感に胸打たれ「ぜひこの方に教わりたい」と思い、松山バレエ団に入団させていただきました。

芸術家は往々にして勘違いをしてしまうのだけれど、切磋琢磨して技を研いてコンクール等で賞をいただければそれでよしと思ってしまうことがままあります。

**西川** 芸術とは何のためにあるのかということをよくよく考えなくてはいけないのでしょうかね。

**森下** 私自身が広島生まれということも、このような考えを持つ大きな要因かもしれませんが、世界の平和のためとか、平和を祈るために踊るとか、人々に温かい愛情を与えるために踊るとか、そういうことが大事なので

はないでしょうか。

**西川** 仰るとおりだと思います。  
**森下** 広島だけには限りませんが日本は戦後何もない状態から再出発して、先輩たちの並々なぬエネルギーと情熱とそれから信念と強い理念をもって復興に立ち向かったわけです。

**西川** 私たちの舞台芸術もそういう思いを強く抱いて臨むべきでしょうね。  
**森下** ことに昨年の大震災の被災者の方々のためには何か心に勇気や希望や夢を持っていただけることができないだろうかと考えています。

**西川** ところで先生のバレエと我々の日本舞踊は大きなくくりで捕らえればともに舞踊、ダンスというジャンルになるわけで、それなりの共通点もあるでしょうが大きな違いは、やはりバレエにおける跳躍の動きでしょうか。

**森下** 跳躍はバレエには欠かせないものですし、それからつま先立ちも日本舞踊にはない動きでしょうか。

**西川** そうですね。日本舞踊には跳躍もありませんがつま先たちはまずありません。よほど修練を積まないとなかなかできないのではないのでしょうか。

**森下** 違いもありますが日本舞踊の動きに学ぶところも多く、共鳴することたくさんございます。ジャンルは違いますが日常的に体を動かしていますので動かさないと血の巡りが悪くなる様な気がいたします。飛行機の中でもストレッチなどをして所狭しと体を動かしていますから。

**西川** 先生に始めてお会いしたときからずいぶん経っていると思いますが、まったくお変わりになりませんか

**森下** ありがとうございます。50周年を越えた頃からいろいろな方からいつまで踊っているのかとか、引退はいつ頃とか聞かれるようになりました。

**西川** 永遠に舞台上に立っていてほしいと思っています。

**森下** 私の続けたい、という思いを周りの多くの方が支えてくださり、今日まで踊り続けることができました。毎

日新鮮にコツコツと続けていきたいと思っています。55年を迎え、昨年には60年になりました。これだけ長く踊っている人はいないですね。ありがたいことだと感謝しています。

先生もそうかもしれませんが同じ演目を何度も舞台にかけているものすごくいとおしくなるし、新しい発見がどんどん出てきます。だからどの作品が一番好きかわれることがあります、全てが好きであり大切なので答えられないのです。

**西川** 新しい発見というのは私どもでも結構あります。古典もので何十年と踊っているのにそういう感触はありますね。

**森下** 私の場合は例えば音楽がそうですね。今まで聴こえなかった音が聴こえることが良くあります。だから音を軽視して無我夢中で踊っていたのでしょうか、若い頃は。

**西川** 洋楽と邦楽の違いはあるでしょうが、我々も三味線や囃子の音色や微妙な間合いを、改めて発見するようなことは良くあります。

**森下** 公演には今でも中学校の同窓生が20人、30人と連れ立って来てくれることもあります、そのたびに好きなことを長いことできて幸せですねといわれます。まったくその通りなのです。今の若い方たちは学校を卒業されても何をして良いかかわからないという話をよく聞きますが、毎日コツコツ続けられることを早く見つけてほしいと思いますね。

**西川** 何でもいいのですから自身の目標になるべきものに早く出会えるといいでしょうね。

**森下** 先生は日本舞踊の国際化のために頻繁に外国へいらっしゃっていますが、先だっては大掛かりな公演をされましたね。

**西川** はい。オランダの3都市を訪問してまいりました。何しろ日本の他の伝統芸術に比べて外国行きは出

遅れていますので認知度がまだまだ低いのはいたし方ありません。しかし能や歌舞伎、文楽に追い付き追い越せの精神で外国公演を実施しています。

**森下** 素晴らしいことです。日本舞踊の深みのある芸術は外国でもきっと受け入れられていらっしゃることでしょね。

**西川**



おかげさまで、近年どこの国へ行っても相応の感触をいただいております。先生の世界は我々と違

い、バレエは本来外国が発祥の芸術ですから、外国公演をなさる場合は私どもとは異なる目的意識をお持ちなのでしょうね。

**森下** そうですね。私の場合は最初は世界はどうなっているのか知りたい、という願望をもってブルガリアのヴァルナで行われているバレエの国際コンクールに出場しました。そこで日本人でははじめて金メダルをいただきました。世界中の人を驚かせてしまったのです。日本人がバレエで世界のトップに立つとはいったいどういう子が踊っているのか、と騒がれました。なにせそれまではロシアをはじめ欧米の方々々が毎回競い合っていましたから。

**西川** まさに快挙でしたね。

**森下** 世界の方、そして日本の方に日本人がバレエに向いているとわかっていただいたことを何よりうれしく思いました。そしてこのコンクールはバレエ界でも相当権威のあるものですから世界中のバレエ関係者が一堂に会していたので、世界のいろいろなところへ呼んでいただくきっかけになりました。

**西川** まさにそのコンクールが世界に羽ばたく第一歩となったわけですね。

- 森下 はい。これを機に世界的なアーティスト、バレリーナのマーゴ・フォンテーンさんやドルフ・ヌレエフさんとも出会い、一緒に踊ることもできるようになったのです。あちらの舞踊手は皆大柄で、私は小柄な日本人の中でも更に小さいので、ずいぶんと見た目は違うのです。でもクラシックバレエのヒロインはピュアでデリケートな役柄が多いのですね。これはまさに日本人にはぴったりなのです。欧米人の大らかさも必要でしょうが、日本人の繊細さが実は求められているのではないかと思うようになりました。
- 西川 なるほど、日本人の特徴を活かしたヒロインの役作りをなさったわけですね。
- 森下 はい、それから何とんでもフォンテーンさんやヌレエフさんといった世界的な巨匠と舞台や実生活でも一緒にいろいろなお話をさせていただきました。これが今の私にとりましては大きな財産です。
- 西川 すでに故人となられた両巨匠に出会えたことは本当に幸せですね。
- 森下 そう思っております。お二人とも人間的にとってもスケールの大きい方で、人に対してもものすごく暖かく接するのです。だからその舞台は人間の生き様がはっきりとわかる素晴らしいものでした。
- 西川 そのような方々の影響をお受けになり、さらにご自身が培われてきたものを含めて現在の先生の舞台がおありかと思いますが、先生は舞台人であると同時に大勢の生徒さんに指導を施す教育者でもあります。どのような理念をお持ちになって教育に当たられていらっしゃるかわか伺いたしたいと思います。
- 森下 生徒さんの全てがプロになるわけではありませんが、やはり継続は力と申しますように、続けて教室に通っていただくようにしています。
- 西川 今の小中学生は学校の勉強以外にやらなくてはならないことが多いようです。
- 森下 そうなんです。だから一ヶ月に一回でもいいから来れるときにはいいから来ると言っています。バレエは大勢の人間が協力して成り立っているものですから、バレエを通して社会の勉強を育んでいただいたり、厳しい稽古を体験することで将来きっとそれが役に立つと思うのです。バレエの技術を磨くことももちろん大事なのですが、人様にありがとう、と言えるような優しい思いやりのある人になってほしいと思います。
- 西川 今日こちらに伺って先生にお会いする前に大勢の生徒さんと行き交いましたが、小さなお子さんが私に「おはようございます」とご挨拶をしていただき、私どもの世界と同じだなと微笑ましく感じました。
- 森下 ご挨拶は基本ですから、にこにこ明るい表情でお互いに挨拶をするようにしております。
- 西川 おかげさまで私もとても穏やかな気持ちで先生にお会いでき感謝しております。今日は楽しく貴重なお話ができてありがとうございます。
- 森下 こちらこそどうもありがとうございます。

### 森下洋子氏プロフィール

1948年、広島市生まれ。3歳よりバレエをはじめ、葉室潔、洲和みち子、橘秋子、シュベツツオフに師事。12歳で単身上京、バレエレッスンに打ち込む。1971年、松山バレエ団のメンバーとなり、松山樹子に師事。1974年、ヴァルナ国際バレエコンクールにて金賞受賞。エリザベス女王戴冠25周年記念公演など海外でも幅広く活躍。英国

ローレンスオリビエ賞など日本人として初となる数多くの賞を受賞。1997年、女性最年少の文化功労者として顕彰される。2001年、松山バレエ団の団長に就任。松山バレエ団プリマバレリーナとしてほとんどの公演に主演する一方、バレエ団の創造活動の要として活躍。2011年、舞踊歴60年を迎えた。日本芸術院会員。